

○ 本校の概要

(学校規模)児童数536名、17学級、教員数23名。
 (本年度の校内研究)平成29年度まで指定を受けた次世代型教育推進センター実践フィールド校の研究成果の検証。教員の研修システムの検証。
 (学校マネジメント強化事業指定校)副校長の業務負担減、教員の働き方改革に係る学校改善の在り方の検討。
 (特色ある教育活動)・夏季にサマーワークショップを50ショップ68講座実施。・月1回の縦割り班活動。・月1回の学級あそび(エンジョイタイム)による体力向上、運動経験の増加。・総合的な学習の時間」や「理科」等で矢口自然農園を活用した体験的な活動の実施。・学習成果発表会である矢口文化フェスタでの発表を通して、表現力の育成を図ると共に、創造的な教育活動の実施。・学校地域支援本部との連携を図り、学校支援ボランティアの活用。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 目標に対する成果指標 | 成果評価 | これまでの取組 今後の改善策 | 学校関係者評価 | |
|------------------|--|--|--|------|---|--|--|
| | | | | | | コメント | |
| A 学力向上 | 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | ①学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 ②算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 ③学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 ④外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 ⑤授業改善推進プランを、授業に生かす。 ⑥家庭学習や自主学習と関連させながら課題を明確にした学習を進める。 | 4:保護者アンケートの結果「家庭での学習習慣が定着している」と回答している保護者の割合が80%以上。 3:保護者アンケートの結果「家庭での学習習慣が定着している」と回答している保護者の割合が70%以上。 2:保護者アンケートの結果「家庭での学習習慣が定着している」と回答している保護者の割合が60%以上。 1:保護者アンケートの結果「家庭での学習習慣が定着している」の達成が60%未満。 | 3 | ○児童の学力の向上を目指して、夏期休業中における第三者面談を実施し、児童一人ひとりの成果と課題の共通理解と、今後の学習の進め方について指導を行った。また、毎学期にはファイリングしたステップ学習チェックシートを持ち帰り、学校での学習状況を保護者に知らせ、児童の習熟状況の共有を図った。 ○家庭学習や自主学習を推進させるために、全校共通した家庭学習のすすめ、朝会での家庭学習の紹介、校内掲示を通して児童への啓発、教員間における情報交換等を行った。 ○毎学期、低中高1回ずつの英語カフェの実施。給食時の校内放送において「レッヅエンジョイ、フォーリンカントリーズ」(外国語教育指導員の母国文化の紹介)の時間設定した。英語カフェの参加率が低いので、計画の見直しを行う。 | ・先生方同士の情報の共有・情報交換が大切だと思います。 ・英語カフェ 面白い取り組みだと思いますので、成功を願っています。 ・家庭学習、自主学習の啓発を引き続きお願いしたいと思います。 | |
| B 豊かな心を育む | 子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。 | ①小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 ②道徳教育推進教師を講師とした研修や、国・都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 ③学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 ④学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 ⑤問題行動・不登校問題等にかかる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 ⑥積極的なあいさつを行う働きかけを行い、「相手の目を見て」、「相手に聞こえる声で」を行動化させる。 | 4:児童アンケートの結果、「自分からすすんであいさつした」と考えている児童が80%以上。 3:児童アンケートの結果、「自分からすすんであいさつした」と考えている児童が70%以上。 2:児童アンケートの結果、「自分からすすんであいさつした」と考えている児童が60%以上。 1:児童アンケートの結果、「自分からすすんであいさつした」と考えている児童が60%未満。 | 4 | ○自己肯定感を高めるため、その子らしさを認めていく関わりを進めた。 ○生活調査を踏まえ、ストレス症状に反応を示した児童に対する個別の聞き取り調査の実施と、その結果について校内での情報交換を行った。 ○計画委員会等による、児童の主体的な呼びかけ、全教員の児童に対する挨拶の共通理解。看護当番を含め、教員からの積極的な関わりを進めた。 | ・豊かな心を育むのは抽象的であり、大変難しいことだと思います。しかし、パロマーターとなるあいさつをこれだけの子たちが“できた”と答えることは素晴らしいです。 ・顔見知りの子供やその子供と一緒に登下校する子供からもあいさつをしてもらい、気持ちが良かったです。今後も続けて欲しいです。 ・大人も子供も精神的に不安定な人が多い時代、とても難しい事だと思いますが、早く気づいて声かけすることがすぐわれます。 | |
| C 体力向上 | 子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や元気の元となる総合的な体力を育みます。 | ①新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 ②「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 ③給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 ④体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 ⑤クラス遊びや長縄、マラソンタイムに積極的に進んで参加させる。 | 4:児童アンケートの結果、「体力向上(がながわや中休みのマラソン、クラス遊びなど)にすすんで自分から取り組んでいる」と回答している児童の割合が80%以上。 3:児童アンケートの結果、「体力向上(がながわや中休みのマラソン、クラス遊びなど)にすすんで自分から取り組んでいる」と回答している児童の割合が70%以上。 2:児童アンケートの結果、「体力向上(がながわや中休みのマラソン、クラス遊びなど)にすすんで自分から取り組んでいる」と回答している児童の割合が60%以上。 1:児童アンケートの結果、「体力向上(がながわや中休みのマラソン、クラス遊びなど)にすすんで自分から取り組んでいる」と回答している児童の割合が60%未満。 | 3 | ○体力向上に向けて、長縄タイム(毎朝登校後)、クラス遊び(月一回のロング休み)、体育指導講師の活用、縄跳びタイム・マラソンタイム(各二回)を実施した。今後は、児童が運動に進んで関われるような校内掲示物を充実させ、児童への啓発を図ることとともに、マラソン等への参加を促すため実施計画の見直しを行う。 | ・過小評価ではないかと少し思います。素晴らしい取り組みが出来ていると思うので、継続されることを願います。 ・小学生のうちに体力を向上させることは、これから長い人生、本当に大切だと思います。なお一層の工夫を期待いたします。 ・小学校の時期は暑い寒いを言わず、外で活発に体を動かして欲しいです。長縄等のグループ競技は心も成長します。 | |
| D 教育環境向上 | 教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。 | ①授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 ②授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOUTを充実させる。 ③各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 ④学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 ⑤校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 ⑥教員の研修システムを取り入れた校内研究を行う。 | 4:学校公開後や2学期末の保護者アンケートの結果、「分かり易く楽しい授業の工夫している」と答えた保護者が80%以上。 3:学校公開後や2学期末の保護者アンケートの結果、「分かり易く楽しい授業の工夫している」と答えた保護者が70%以上。 2:学校公開後や2学期末の保護者アンケートの結果、「分かり易く楽しい授業の工夫している」と答えた保護者が60%以上。 1:学校公開後や2学期末の保護者アンケートの結果、「分かり易く楽しい授業の工夫している」と答えた保護者が60%未満。 | 4 | ○児童の確かな学びを導く授業改善を行なった教科横断的な校内研究となるよう、教師が児童役となり事前授業を行なう校内研究等を実施をした(年十回)。今後、児童一人ひとりの考えを発信する授業の創造ができる校内研究の充実を図り、一人一回は講師役となる、ミニ研修会を実施する。 ○木曜日の連絡会における、ミニ研修会での実践事例の紹介や情報交換の実施を行った。 ○ICT支援員や担当教員による、ICT機器活用研修を実施した。 ○授業公開後の保護者アンケートの回収率を向上させるための働きかけを行う。 | ・ミニ研修会 とても素晴らしい事だと思います。人の前でしっかり意見が言える事は大切です。 | |
| E 家庭・地域の教育力向上 | 学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。 | ①教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 ②地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評議に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 ③学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 ④学校、保護者、地域、及び各種団体が協力して、夏季休業中にサマーワークショップを実施する。 ⑤学校、保護者、地域、及び各種団体が協力して、月1回の読み聞かせの実施や授業ボランティアを活用した授業を行う。 | 児童アンケート「サマーワークショップに楽しく参加できた」と答えた児童が 4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満 | 4 | ○ホームページにて、児童の日常の活動の発信を行った。 ○図書ボランティアさんによる読み聞かせ、グリーンさんによる農園での栽培活動等、学校支援地域本部との連携を図った教育活動を実践した。 ○多くのショップが開催され、サマーワークの充実が図られた。今後、サマーワークショップにおける参加児童のマナーの向上を呼び掛けていく。 | ・サマーワークは教科書を離れた一つの学び場であって、遊ぶ所ではないのです。しっかりと規則を守るといいですね。 ・前回の協議会で話題にあがりました、欠席時の未報告がある事が残念に思いました。ワークショップを開催するのにどれだけの人が携わっているのかを、生徒や保護者に改めて考えていただきたいです。 ・多くの方のご支援のおかげで参加した子供達が楽しんでいるのが伺えます。 ・サマーワークショップは猛暑のせいで実施できないものもあり残念でした。 | |
| F 特徴ある教育活動 | 自分で考え判断し、自主的に行動できる児童を育成します。 | 矢口自然農園を活用した各学年の栽培活動や学習発表会としての矢口文化フェスタを通して、体験的で創造的な教育活動を行う。 | 児童アンケート「生活科や総合的な学習に進んで活動し、文化フェスタでまとめて発表できた」と答えた児童が 4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満 | 4 | ○文化フェスタでは、発表を通して多様な考え方を受け止めたり、自他の良さに気付いたりすることができる。体育館での全体発表を行なった。今後、問題発見的な活動や課題解決的な活動を行うことで、より効果的に農園が活用されるよう計画していく。 | ・矢口自然農園という他にない遊び場があり、豊かな教育となっていますね。 ・各学年、クラスごとによく考え、協力して発表されました。他学年の子供達の発表もそれぞれ楽しんでいました。 | |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。